特集3

100年後の都農町を見据えた町づくりと人づくり

「ダイバーシティプロジェクト」とは？

一般財団法人つの未来まちづくり推進機構と宮崎大学が取り組んでいる「ダイバーシティプロジェクト」。そもそもダイバーシティって何？具体的にどんなことをやっているの？プロジェクトを率いる二人に話を聞き、その疑問を解決します！

宮崎大学
清花アテナ男女共同参画推進室
副室長 清水（しみず） 鈴代（すずよ）さん

一般財団法人つの未来まちづくり推進機構
業務執行理事
山内（やまうち） 大輔（だいすけ）さん

ー「ダイバーシティプロジェクト」が始まった経緯を教えてください。

山内 大輔さん（以下敬称略）令和元年度「つの未来まちづくり推進機構」が設立したときに宮崎大学と一緒に開催した、女性のための「健康セミナー」がきっかけですね。

清水 鈴代さん（以下敬称略）「町民の将来にプラスになるようなものを」と行ったのですが、都農町は女性だけが暮らしているわけではありません。都農町で暮らしているさまざまな人が、多様な価値観を認め合える町にするということにフォーカスしたほうがいいのではないかと山内さんに相談したんです。

山内 まちづくりを進めるなかでも"多様性"を求めていけたら、と思っていたので、宮崎大学への委託研究という形で「ダイバーシティプロジェクト」が始動しました。

ーダイバーシティといっても、いろいろな角度からのアプローチがあると思います。どのような世代を対象に、どんな取り組みを行っていますか？

山内 令和2年度のコンセプトは「～つのNEXT100へ～支える人を育む種をまこう」。これから100年先の都農町を見据えて、現在は主に子どもたち、または子育て世代の保護者にアプローチをして、ダイバーシティの理解を深める取り組みを行っています。

清水 「いろいろな価値観・生き方があって良いんだ」と子どもたちに理解してもらい、ダイバーシティにアンテナを張ってもらいたいと考えました。そのために、子どもたちが一番影響を受けているであろう保護者にも同時にアプローチをしています。

山内 まずは令和2年度に町内の保育施設を利用する子どもの保護者を対象に、子育てに関するアンケートを実施しました。

清水 「お父さんもお母さんもご協力ください」と案内はしたのですが、アンケートの回答の8割以上がお母さん。多様性といいつつ、やっぱり女性が家事・育児という価値観が体現されている結果に。ただアンケートの結果から、お父さんも家事・育児に協力したい気持ちを読み解くことができました。

山内 この結果を受け、子どもと関わりたいと思いながらも、そのきっかけが少ないお父さんをターゲットに、子どもと触れ合えるイベントを開催しました。私も参加者のひとりだったのですが、非常に盛り上がりました。こういったイベントを通して自然体で、ダイバーシティに対する理解が深まってほしいですね。

清水 これまで取り組んだことからもう少し広げてみようと、令和3年度は町内の学校に通う小学5年生、中学2年生にアンケートを回答してもらいました。また同時に、子どもたちの保護者への協力もお願いしています。

山内 例えば保護者向けは「お子さんは将来どのようなことを重視して仕事を選んでほしい？」、子ども向けは「なってみたい職業やしてみたい仕事がありますか？」と対比した問いを立て、保護者と子どもの考え方や認識にどのような違いがあるかなどを検証しました。

ー具体的に結果はどのようになっているのでしょうか？

清水 気になった結果のひとつが家庭での役割分担に関する設問です。「家で話をしたり一緒に過ごしたりするのは誰？」という質問で、小学生・中学生ともに"お母さん"との回答は約9割、"お父さん"は約6割でした。

一方、「食事の支度や掃除、洗濯などを積極的に行っているのは誰？」という設問では"お母さん"9割に対して、"お父さん"は約3割だったんです（図1）。この結果から、「お父さんと一緒に過ごしているけど、家事・育児をしているところは見ていない」という子が結構いることがわかります。

身近な存在である家族の姿は、子どもたちの価値観や行動に大きく影響します。家庭によっていろんな方針、背景はあると思うのですが、子どもたちが「家事・育児は女性がやるものだ」といった考えにとらわれることがないよう、家族で協力できる部分を増やしていけるといいのではと思いました。

山内 いろんな考え方についてたずねる設問もありましたね。

清水 今回は4つの項目でたずねました。「男性が子育てのために仕事を休むこと」、「女性が組織のリーダーになること」に対しては、子どもも保護者も"よいと思う"というポジティブな回答が多かったのですが、「女性同士、男性同士で恋愛すること」、「大人になっても結婚しないこと」についてはネガティブな回答も少なくありませんでした（図2）。

ただ、すべての項目で、小学生より中学生のほうがポジティブな回答が多かったのです。この結果から、成長するにつれて「いろんな生き方があるんだ」ということを知り、許容できるようになるのではないかと感じました。

また、今回の調査では、性別回答欄に"男""女"だけでなく"その他"を設けたんですが、それに対して、小学生から「性別は男と女だけ。その他はいらないと思います」との回答がありました。これはLGBTなどに関する具体的な知識・情報がないからだと思うんです。このように、ちょっとした思い込みで気付けていない問題はまだまだたくさんあるのではないでしょうか。

ーこの結果を受けて、どんな取り組みを行う予定ですか？

山内 これからさらに細かく分析する必要がありますが、まずはより具体的なものとしてダイバーシティについて知ってもらうきっかけづくりが重要ではないかと思っています。これからの都農町には、性別や国籍などにかかわらず活躍できる環境が必要だと思うのですが、どうしても「女性は男性の影で……」という意識がまだ根強いように感じますね。

清水 「女性はこうあるべき」、「若い人はこうあるべき」といった思い込みが邪魔をしている側面はありそうですよね。「出る杭は打たれるからこの程度で」、「おとなしくしておいたほうが無難だ」と考えて本来の能力を発揮できないままの人もいるとすれば、町の活性化にとっても大きな損失だと思います。

山内 そうですね。だからこそ子どもたちなども含む若い世代にダイバーシティについて知ってもらい、それを町全体に波及させていければいいなと期待しています。

清水 いきなり大きな課題から考えると自分とは関係ないことだと感じるかもしれません。でも「女の子だから進学は県内でないとダメと言われた」など進路などの身近な問題でも、「それって本当にダメなの？」と生き方の多様性について考える機会にできます。いろんな価値観、生き方を認められると、自分がしんどくなったときにも心の余裕が持てますし、生きる強さにもつながっていくと思います。

そもそもダイバーシティって何？

直訳すると「多様性」という意味。一人一人の顔が異なっているように、性別、体型、価値観、性的指向など、私たちはさまざまな違いを持っています。それは生き方でも同じ。例えば「女性は料理が得意」、「リーダーは男性がふさわしい」といった**思い込みにとらわれず、さまざまな生き方、考え方を受け止めることで、差別や偏見のない社会**を目指すために必要となるキーワードです。

図1 あなたの家で食事の支度や掃除、洗濯などを積極的に行っているのは誰ですか？

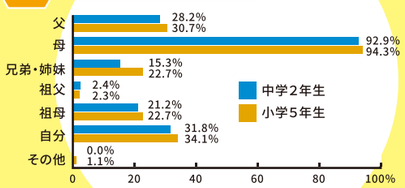
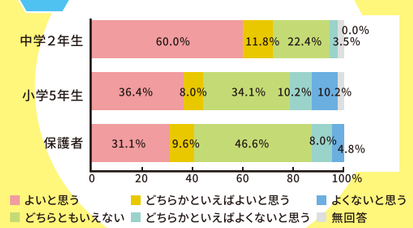


図2 「大人になっても結婚しないこと」についてどう思いますか？



EVENT PICK UP ≫ 第2回目の開催！

「パパとつくろう！おやつ&フォーク」令和3年12月開催

特集内でご紹介した、ダイバーシティプロジェクトの取り組みのひとつ。子どもと関わりたいと思いながらも、きっかけが少ないお父さんのために、子どもと触れ合えるイベントが開催されました。

町内8組のお父さん&子どもが集い、おやつやフォークづくりを体験。同世代の子どもを持つお父さん同士の会話も弾み、新たなコミュニティができるきっかけに！お父さんと水入らずの時間で、子どもたちにとっても、うれしい時間となりました。